

2019年 新年のごあいさつ

一般社団法人 群馬県介護支援専門員協会 会長 大澤 誠

皆さま、新年あけましておめでとうございます。

平成結びの年の年頭にあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年も7月豪雨や北海道胆振東部地震など多くの災害に見舞われました。遠い地のことだと思っていたら、職員の実家が岡山にあたり、友人が北海道にいたり、けっして他人ごとではなく、「我がこと」として対策を怠らないようにしなければなりませんね。そして、年始とはいえ、いまだご苦労されている被災者の方々にお見舞い申し上げるとともに、尊い命を失くされた方々に改めてお悔やみ申し上げます。



さて、昨年は介護・診療報酬ダブル改定の年でもありました。地域包括ケアシステムの充実に向けて、医療・介護連携がますます要求され、在宅から病院、そして病院から在宅へと切れ目ない情報のつながりが求められています。皆さんの地域では「退院調整ルール」は円滑に動いているでしょうか。これに関しては、それぞれの地域において、病院関係者と介護支援専門員とで検証しながら、使い勝手の良いものに育て上げてほしいと思っています。昨年11月30日（「良い看取りの日」）にはACP（アドバンス・ケア・プランニング）のニックネームが“人生会議”と決まりました。ACPIは例の植木鉢のお皿の部分「本人の選択と本人・家族の心構え」に通じる大事なものです。“人生会議”をファシリテートする役割も介護支援専門員が担ってほしいと思っています。

ところで、当協会ですが、会員数の伸び悩みに苦しんでいます。むしろ、平成30年11月末日現在の正会員数は1,037名（平成29年11月末日現在の正会員数1,067名）と減少しています。他県と異なり、県から委託される研修事業等はなく、収入は会費収入に頼る部分が多いという運営上の問題を抱えています。12月4日に発表されました2018年度介護支援専門員実務研修受講試験の結果ですが、全国平均10.1%と過去最低の合格率で、県内での合格者数も91名（11.8%）であり、会員数を増やすには、既存の介護支援専門員にお声掛けしていただく必要があります。数は力です。日本協会とともに、多くのおみなさんが当協会に入会していただく必要があります。

今年の干支の「亥」ともされる動物の猪の肉には万病さえも防ぐ、予防する力があるとされ、亥年は「無病息災」の年とも言われています。しかし、無病息災の年だからと言って過信せず、健康には十分留意され、皆さま方が、そして当協会が“イノ（亥）バージョン”を目指せたらと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

祝 叙勲 伊勢崎支部 木我 勝 氏

11月3日付で発表された、平成30年秋の叙勲において伊勢崎支部の木我勝氏（ことぶきの郷施設長）が瑞宝単光章を受章されました。



瑞宝単光章は、国及び地方公共団体の公務又は公共的な業務に長年にわたり従事して功労を積み重ね、成績を挙げた者を表彰する場合に授与するとされています。公共的な業務の中には各種施設において社会福祉に直接携わる業務も含まれています。今回、木我氏は特別養護老人ホーム「ことぶきの郷」生活相談員を主要経歴と認められ受章されました。

木我氏に聞きました。

Q. 受賞の喜びについて

A. 新聞に掲載された文章を見てください。

記事より→「40年間で数え切れない



ほど多くの方から笑顔と喜びをいただいた。支えてくれた家族と仲間感謝している。これからも福祉人としての使命を全うできるよう努力したい。」

Q. 受章された時のスケジュールについて

A. 11月6日(火) 15:00 群馬県庁にて開催された伝達式へ出席。伝達式にて大澤知事より勲記及び勲章の授与。その後東京へ移動し宿泊。



11月7日(水) 7:15 衣装等打合せ、写真撮影行う。12:20 厚生労働省着。13:30 厚労省式典(厚労省副大臣祝辞)。14:00 バス20台に分乗し皇居へ。15:00 春秋の間着(広さ約184坪の絨毯敷き)。6列に整列の後、侍従より拝謁について説明。15:30 天皇陛下入場しひな壇へ。受章者代表謝辞。陛下より祝辞。壇を降り受章者間を一周の後退場(15:40 終了)。その後撮影行い、厚生労働省へ移動して解散。自宅へ戻ったのは22:00でした。貴重な体験をさせて頂きました。(ちなみに全部自腹です)



Q. 天皇陛下にお会いして

A. ありがたいオーラを感じました。受章者の中には感動して涙されている方もいらっしゃいました。

履歴 1980年3月 東北福祉大学社会福祉学部社会福祉学科卒業
1980年4月～1990年3月 養護施設「地行園」児童相談員
1990年7月～2003年9月 特養「清里荘」にて介護職員・生活相談員・在宅介護支援センター相談員・介護支援専門員を歴任
2003年10月～ 特養「ことぶきの郷」生活相談員・介護支援専門員を歴任
2005年4月～ 副施設長
2018年4月～ 施設長

木我氏よりお話を伺っていると、大きくて優しいオーラを感じました。

おめでとうございます。

居宅介護支援温守 前田 正博

「ぐんま介護フェス2018に参加して」(午前)

11月10日、けやきウォークにて群馬県主催の「ぐんま介護フェス2018」に、群馬県介護支援専門員協会を代表して、介護なんでも相談コーナーを担当してきました。

総合司会の群馬住みます芸人アンカンミンカンの軽快なトークで会場を笑いに包み込みながらオープニングセレモニーが始まり、その後、映画「ケアニン～あなたでよかった～」が上映されました。会場には映画を見たくて大勢の方が集まり、時々涙ぐみながら見ている方が多くいました。その人らしい生活を送ってもらうために、私たちケアニンは何を考え、どう行動しなければならないのかと深く考えさせられました。



その他にも会場では、「高齢者疑似体験」「車椅子体験」の体験コーナーに多くの小学生の子ども達が参加されていました。この体験をきっかけに子ども達が介護に興味をもって、将来のケアニンを目指してほしいと思いました。

担当した介護なんでも相談コーナーでは、「同居している母親が段々と動けなくなってきているので、どうしたら良いか」と相談があり、短い時間ですがお話を聴き、介護保険制度の説明をしました。介護認定もまだしたことがないとのことだったので、担当の地域包括支援センターの連絡先を伝え、まずは介護認定からしてはどうかと勧めてみました。

今回は介護フェスの中での相談だったので、短い時間での対応でしたが、普段の業務では、しっかり、ゆっくりと話を聴き、映画ケアニンのサブタイトルでもある、「あなたでよかった」と思っていたような仕事をしていきたいと思いました。

ケアプランセンター老研 野中 和英

「ぐんま介護フェス2018に参加して」(午後)

私は、午後の「介護なんでも相談コーナー」のお手伝いをさせていただきました。相談件数は少なかったのですが、介護フェスに参加して良かったと感じました。アンカンミンカンの司会で、楽しくいろいろなイベントが開催されました。

ステージでは、「学生による学習成果発表」があり、介護の実習に行き、真面目に学習した成果を2名の学生が発表されました。睡眠時間とBPSDの出る頻度をグラフで比較して、とても興味深い発表でした。これからの介護の担い手として、たくさんの若者が介護に興味を持ってもらいたいと思いました。「介護の日クイズ」では、会場が一つになって、介護に関するクイズに答え、正解者にはプレゼントがあり、盛り上がっていました。「現役介護職員と学生との対談」では、学生の質問に、現役介護職員が丁寧に答えていて、とても雰囲気良かったです。

高齢者疑似体験や車椅子体験など、普段、介護に携わっていない方もいろいろな体験が出来て、介護の仕事を理解してもらえるような介護フェスだったと思います。

パナケア真中(株)高崎居宅介護支援事業所 中西 有美子



【群馬ケアマネジメント研究会 ユースセッション 活動報告】

11月10日に群馬ケアマネジメント研究会ユースセッション研修会が70名近い参加者のもと開催されました。研修前半は、5名の専門職によるパネルディスカッションで、各自が持ち寄った内容に関して提言を行うという、斬新な企画を取り入れ進められました。パネリストの方たちにおいては各々が抱く「提言」を発表するという一方で、多少緊張もあったようですが、いざ始まると皆様、堂々と有意義な提言を行っていただくことができました。

後半のユースセッション恒例となりつつあるワールドカフェスタイルのワークでは前半以上に闊達な意見交換が行われました。私自身も「正直、話しすぎたか?」と思うくらい自分の意見を述べてしまいました。

議論においては、肯定論、異論、様々ありましたが、私たち専門職がそれらを共有、思考錯誤しながら自分たちの「力」へと昇華していかなければいけないと強く感じる研修となりました。

ケアサポートようざん栗崎 菅沼 佑二

【ケアマネジャーの仕事楽しんでますか?】

「みなさん、ケアマネジャーの仕事楽しんでますか?」ユースセッションに参加をした帰りには、その思いは確信に変わります。「私は、ケアマネジャーの仕事を楽しんでいるのだ!!」と…。

ケアマネジメント、事務処理、対人関係など日々の業務に追われる中、ケアマネジャーとしてどうあるべきなのか?これでいいのだろうか?他のケアマネジャーはどのようにしているのかな?と思い、時には迷うこともあるかと思えます。しかし、ユースセッションは、ケアマネジャーだけでなく、医療や福祉関係のみなさんと、同じ時間と情報を共有して、その思いを共感する事が出来ます。そういったみなさんと、繋がり、お互いを理解し支えあう事が出来ることもユースセッションの醍醐味であるといえます。ぜひ次回のユースセッションでお会いしましょう。

富岡市社会福祉協議会 救護施設 妙義白雲寮 萩原 敦子

【ユースセッションに参加して】

今回居宅ケアマネジャーの視点から、利用者が介護保険サービスを利用しないと居宅介護支援費が算定できないため無報酬になってしまうことがある『タダ働き辞めませんか?』と提言しました。

参加者から「すごくよく理解できる、納得できた」という方や「タダ働きありきの仕事なのでは?タダ働きをした事で利用者の信用ができていく、だから次の相談に繋がっているのでは?」と意見をいただき大変勉強になりました。

自分の思いを伝えることができる研修はなかなかないので、現任者から発信する意見に多くの仲間が反応してくれたことがとても嬉しかったです。

日々仕事をしていると疑問に思うことがあっても忙しさの中で消え去ってしまうことが多く伝えることを忘れてたり諦めてしまうこともありましたが、今回の発表を通して伝えることの大切さを改めて感じることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

(株)ファーマ・プラス ホスピスケアマネジメントがらす 飯嶋 寛



理事会・委員会報告

理事会

会長 大澤 誠

秋の叙勲で、伊勢崎支部の木我勝さんが、瑞宝単光章を授与されたとの報告がありました。2019年度の群馬フォーラム開催は11月23日が第一候補日となっています。来年度のケアマネ試験受験対策講座は受講者の大幅減少で中止の方向です。「市町村が取り組むケアプラン点検の支援に係るアドバイザー派遣の協力」依頼が県よりあり、協力していくこととなりました。平成31年2月3日に開催される特別講演会(県民公開講座：わが家の災害対応から地域の災害対応を考える)について検討がありました。

総務財政委員会

総務財政委員長 松沢 斉

この時期になるとそろそろ決算が気になり始めます。会員数は今年度もほぼ横ばい状態ですので、安穩とはしてられません。例年と大きく変わる事業を行ってきたわけではないですが、財政を預かる立場では不安の方が大きいものです。

会員数はほぼ横ばいと申しましたが、実は今からでも遅くはありません。これから年度末までに入会される方は、今年度の年会費が免除され、入会金のみで正会員になることができます(もちろん31年度の年会費は一般の方と同時期に請求させていただきます)。

お近くの未だ入会されていない方に是非教えてあげてください。「耳寄り情報」として。

学術研修委員会

学術研修委員長 菅野 圭一

7月の広報にも書かせていただきましたが、今年度の特別講演会(平成31年2月3日開催)は「わが家の災害対応から地域の災害対応を考える」と題して、県民公開講座の形で行います。現在、岡島理事が講師(一般社団法人ピースボート 災害ボランティアセンター)と詳細な打ち合わせ中です。お楽しみに。また、それとは別に、今年度のケアマネフォーラムで話題となった「アドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning :ACP)」に関する研修会が開催できないかと画策中です。こちらも期待しててください。

広報情報委員会

広報情報委員長 松本 勝美

ケアマネ群馬113号を発行できました。今回は新年号に相応しい内容として、会員の木我 勝氏の叙勲の栄誉と喜びをお知らせできたことに委員一同、嬉しさを感じています。歴史の浅い当協会ではありますが叙勲の記事を掲載したのは二度目となります。初めは元会長の高玉真光先生でした。皆様の活動がこのように認められることはとても素晴らしいことです。会員の皆様の活動や業績などをもっと多く掲載していきたいなと切に思いました。今後も群馬県介護支援専門員協会の活動と支部情報および会員の皆様の活躍状況をお伝えしていけるよう努力してまいります。

支部情報

利根・沼田支部

11月10日（土）13時30分より沼田市白沢振興局にて日本防災士会群馬県支部の方々をお招きし、「防災基礎知識とHUG（避難所運営ゲーム）」をテーマに講演とグループワークにてHUG（避難所運営ゲーム）を行いました。

群馬県内でも大きな活断層がある地域で発生した地震を想定した訓練に、先着定員52名が参加。250枚のカードを用いて実際の被害状況を想定し避難者を適材適所の場所へ誘導、様々なイベント等が目まぐるしく提示され各グループ内で連携を図り、かつ迅速に対応する場面が非常に多くありました。避難者は様々なシチュエーションで老若男女の他にも外国籍・ペット等も出現し困難な選択等も迫られる事もありましたが、実際の避難所において起こる事態は想像を遥かに超える事態も多いと思います。

最後に振り返りとして反省点や実際の災害場面でのアドバイス等を防災士より細かく頂き、近年の災害状況を踏まえた災害時に対する備え、自助・共助・公助に対する再認識と災害と背中合わせで生活している私達が、日頃からできる備え等を分かりやすくお話しを頂き、緊張感もありながら実生活においても役立つ有意義な研修でした。

（特別養護老人ホーム花の苑 田村 隆宏）



多野・藤岡支部

10月18日（木）18:30から藤岡市みかぼみらい館地下ギャラリーにおいて「群馬県認知症疾患センター篠塚病院・群馬県介護支援専門員協会多野藤岡支部 第6回事例検討会」が開催されました。認知症疾患センターと共催で、介護支援専門員、認知症ケア専門士等52名の方に参加していただき、7グループに分かれて「認知症高齢者と家族の対応について」というテーマで事例検討を行いました。今回は音和の園の川田さんに事例を提供していただき、簡易KJ法を用いて情報整理をしながらグループワークを行いました。

グループごとに様々な視点で課題の整理をすすめながら、ケースの主治医でもあるセンター長の田中眞先生からの所見をいただくことで、認知症の具体的な進行状況を踏まえてより活発な意見交換がされました。

私達のグループは「ご利用者とご家族の関係が悪い時、関係を再構築するためにケアマネジャーとしてどう関わっていくか」について具体的な手段を考えました。

今回の研修を通して、困難なケースほど、ご本人だけではなくご家族へのアプローチと日頃からの主治医との連携が欠かせないことを再認識しました。今後の業務に活かしていきたいです。

（社会福祉法人みやび会ふじの里 居宅介護支援事業所 小林祐三子）



吾妻支部

今回の吾妻支部研修会は、「健口長寿を支援するー地域包括ケアシステムにおける歯科の役割ー」と題し、地域歯科診療の第一線で活躍する外丸先生より講義を受けました。歯科医師として日々の医療実践で感じていることや現場のリアルなお話は、私たちに歯と口の健康を守ることの意義を再確認させてくれる内容でした。特に、「口の中のバイオフィルムを物理的に除去することが、虫歯や歯周病だけでなく全身疾患の病原を除去することにつながる」という部分は、普段の実践の中でも常に意識しながら取り組む必要



があると感じました。また、歯が無くなって歯茎だけになった「お口のターミナルケア状態」になってしまうと、歯科治療することが大変難しい、という部分では、誰かが気付いた段階でできるだけ早く歯科受診を勧めることや、日常的に歯科医師、歯科衛生士との連携を図る必要があると感じました。

恒例の懇親会では、先生を交えてじっくり話をする時間を持つことができました。

本当の意味での実践的な顔の見える連携、多職種協働は、関わる人たちが同じ時間を共にしながら対話を重ね、時間をかけて少しずつ創られていくものであると、再認識した研修会でした。

(嬭恋村社会福祉協議会 居宅介護支援事業所 佐藤 義浩)

伊勢崎支部

11月20日(火) 18時30分から伊勢崎市民プラザにて「デイケアの基礎から応用まで」～その人らしく地域で暮らすためにデイケアができること～と題して、介護老人保健施設たまむらの通所リハビリテーション主任、須藤一樹様(理学療法士)による研修会が開催されました。参加者は18名。今回の研修は伊勢崎支部で継続して行っている「ケアマネジャーのための在宅支援塾」(通算7回目)です。講義ではデイケアとデイサービスの違い、デイケアの効果的な利用法、加算の構造などについて、事例を交えてわかりやすく説明していただき、今まで曖昧となっていた知識が整理されました。質疑応答では、通所リハビリの卒業、リハビリ意欲が低い利用者への対応などが挙がりました。どちらのケースにしても、*SPDCAサイクルとリハビリテーションマネジメントの考え方を基本としつつ、個別に対応しているとの事でした。今回得た知識を活かし、デイケアとのより良い連携を踏まえたケアマネジメントを行って行きたいと思えます。



(居宅介護支援たまむら 鈴木 将志)

* SPDCA サイクル: S (調査) P (計画) D (実行) C (評価) A (改善) を繰り返すことで、業務を常に改善しながら進めていく手法。

コラム

介護人材不足について

介護人材の不足問題について、2016年度で約190万人であった介護職員数を2020年度には約216万人、2025年度に約245万人に増やす必要があるという報告を目にしました。実際に人手不足に悩む事業所のお話をよく聞きます（所属する事業所も）。国内での人材確保が難航するなか、政府は海外からの介護人材の受入を積極化する方針のようです。

介護分野に限ったデータではないですが、日本が労働力として受入を期待している近隣アジア諸国の方々は積極的に日本での就労を目指していないというデータもありました。どんなに規制を緩和しても、日本の介護分野に就労する事に十分魅力がなければ、期待するほどの人材増加は見込めないのでは・・・？とその報告では結ばれていました。

さて、まずは個々人が出来ることは何か？私は介護の魅力の一つとして、人との繋がりを強く感じています。人と繋がることの喜びや、充実感といった魅力を、介護支援専門員として広めていきたいと思います。

(基礎資格 社会福祉士 U)

事務局からのお知らせ

先月号のお詫びと訂正

平成30年11月号(ケアマネ群馬112号)の6ページに掲載された渋川支部の連絡先に誤りがありました。ご迷惑をお掛け致しました事深くお詫び申し上げます。

訂正前：特養 清流の郷 TEL：0279-56-9201

訂正後：特養 永光荘 TEL：0279-23-1122

ホームページのご紹介

一般社団法人 群馬県介護支援専門員協会のホームページ

研修会や事務局からのご案内、各支部情報など掲載されておりますのでご利用ください。



求人のお知らせ

職種：①機能訓練指導員
②介護職員

内容：①運動補助や機能訓練指導及び送迎
②デイサービスでの介護業務及び送迎

資格：①柔道整復師 鍼灸師
マッサージ師 PT OT
②無資格・未経験者OK！

給与：①月給 21万円～25万円
(能力に応じる)

②時給850円～(処遇改善加算有り)

※経験・能力により考慮 ※研修期間在り

時間：9時00分～17時00分

※送迎の時間で多少前後

※パートさんは週2日より応相談

休日：週休2日制(土・日)

待遇：社会保険完備、制服貸与、交通費規定内支給
まずはお気軽にお電話を

リハビリデイセンターオカダ/株PCS
高崎市日高町437-2
TEL027-384-8080(担当ウスタ)

編集
後記

あけましておめでとうございます。今年は平成から新しい年号へと変わります。新しい年号になって最初のケアマネマネジメントフォーラム in 西毛は安中市で開催予定です。会報「ケアマネ群馬」でも、随時お知らせをしていきます。これからも皆様に活用して頂ける会報になるよう努めて行きますので、よろしく願い致します。(I)